

研究計画概要書

研究課題名		肉離れ既往歴のある大学アメリカンフットボール選手の柔軟性の特徴と静的ストレッチングの効果
研究組織	研究責任者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 教授 鈴木重行
	研究分担者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 4年 中川寛菜
	共同研究者 (所属・職名・氏名)	名古屋大学大学院医学系研究科リハビリテーション療法学専攻 山中英士 名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 大谷真奈 名古屋医健スポーツ専門学校 理学療法科教員 阿部信美
	研究事務局 (機関の名称・住所・連絡先)	名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 教授 鈴木重行 〒461-8673 名古屋市東区大幸南 1-1-20 TEL/FAX 052-719-1362 メールアドレス suzuki@met.nagoya-u.ac.jp
研究の意義・目的		<p>ハムストリングスの肉離れ (Hamstring strain injury; HSI) はアメリカンフットボール等のスポーツにおいて多発する傷害であり、筋力不足、柔軟性不足、疲労などのリスク因子が報告されている。また、HSIは再受傷率が高く、初発時よりも重症化する傾向があるという報告があるため、HSI 既往歴を有する競技者の身体的特徴を明らかにすることが重要である。HSI 既往歴を有する競技者の柔軟性について、一般的な柔軟性指標である関節可動域 (ROM) は競技復帰後、受傷側は非受傷側と比較して同程度であるという報告がされているが、筋の硬さの指標である stiffness や筋弾性率についてはこれまでに調査がされていない。</p> <p>また、静的ストレッチング (Static stretching; SST) は HSI 受傷後、柔軟性改善を目的に行われることが多いが、HSI 受傷後の SST が柔軟性に及ぼす影響について調査した研究はほとんどない。</p> <p>そこで、本研究では、HSI 既往歴のある大学アメリカンフットボール選手を対象に(1)柔軟性の特徴を調査すること、(2)SST が柔軟性に及ぼす影響を調査することの2つを目的とする。</p>
主な選択基準		肉離れ既往歴を有する大学アメリカンフットボール選手

<p>研究方法（多施設共同研究の場合は、 本学の役割も記載）</p>	<p>対象は名古屋大学アメリカンフットボール部に所属する学生選手とする。実験は両側のハムストリングスを対象に SST の前後で評価指標の測定を行う。SST には等速性運動機器を用い、大腿後面に痛みが出る直前まで膝関節を伸展し、5 分間伸張する。測定には、等速性運動機器および剪断波エラストグラフィを用いる。</p> <p>評価指標は、動的トルク、stiffness、関節可動域（ROM）および筋弾性率を測定する。</p>
<p>研究期間</p>	<p>名古屋大学倫理委員会の許可日～平成 30 年 3 月 31 日</p>
<p>インフォームド・コンセントの方法 （説明を行う者等）</p>	<p>説明者：名古屋大学医学部保健学科理学療法学専攻 4 年 中川寛菜</p> <p>1) 本研究への参加の判断は完全に対象者の自由意志に基づいて行われ、参加拒否によって本人がいかなる不利益も被らないことを明確にする。</p> <p>2) 本人には文書及び口頭で説明し、研究の内容を理解した上で同意が得られた場合にのみ、同意書に署名を依頼する。</p>
<p>個人情報の管理体制（個人情報管理者、 連結表の管理体制等）</p>	<p>個人情報は匿名化し、厳重に保存する。本研究が論文などで報告される場合にも匿名化を厳守する。</p>
<p>研究で収集した試料・同意書の保管場所、 研究終了後の試料の取扱い</p>	<p>1) 対象者の個人情報は ID によって管理して、個人が特定できないようにした上で、資料は原則として研究終了後に廃棄する。</p> <p>2) しかし、もし同意していただけるようであれば、将来の医学研究のための貴重な資源として、研究終了後も保管させていただくことがある。</p>
<p>効果安全性評価委員会 （委員の職名・氏名・審査間隔）</p>	
<p>被験者に重篤な有害事象が生じた場合の 対処方法</p>	